

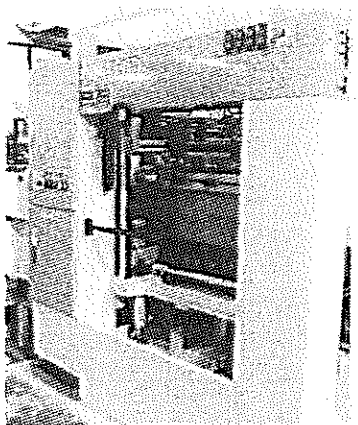
## コーターラインを部分更新

### 投資1億円弱、17日から本稼働

（大阪）JFE商事ブリキセンター（清末浩史社長）は同社本社工場（大阪府大東市）にあるコーターライン（塗装ライン）の1号機を部分更新し、盆明けの17日から本格稼働に入った。投資総額は1億円弱。旧1号機と同メーカー・同機種の種類である2号機も老朽化が進んでおり、今後は新1号機の稼働状況やタイミングなどを見計らいながら2号機の部分更新を実施していく考えだ。

今回更新したのは塗装・焼付・集積（パイリング）から成るコーターラインの塗装の部分で、更新した機械は富士機械工業製の「PRIMEX-IC452」（写真）。スペックは所要床面積が幅2670<sup>ミ</sup>×長さ7465<sup>ミ</sup>、総高さが2130<sup>ミ</sup>、加工シートの対応寸法が最大0・6<sup>ミ</sup>厚の1145×950<sup>ミ</sup>、最小0・12<sup>ミ</sup>厚の680×473<sup>ミ</sup>、機械速度が8400枚/時（140枚/分）。旧1号機と比較するとスペックは大きく変わらないものの、「新しい機械だから塗装の精度は当然高まり、製品の不良率も低下する。それに、清掃を含めて自動化された作業部分が多く、安全性と作業性の向上にも繋がる」（清末社長）という。

コーターラインの一部を今回更新したのは、30年以上の使用で老朽化が進んでいたことによるもの。前期に具体的な更新計画を立てることとなり今期4月にメーカーへ正式発注、7月から旧機の撤去や工場の整備などの工事に着手し、新機の据え付けへ進んだ。その後はライン担当者（3・5―4人）が盆休みを返上しつつ交代で出勤しながら操作方法などを習得し、盆明け17日から本格稼働に入った形だ。今後について、清末社長は「まずは現業社員に新機の習熟度を高めても



らう。小ロット多品種に対応している2号機の一部更新については、新機にどの程度小回り感があるか見ながら考えて行きたい」としている。